

6月以降の気象経過

<6月> 気温は高く、日照時間は多く、降水量は少ない

日平均気温は平年より2.2℃高く、日照時間は平年比126%と多く、降水量は平年比42%と少なくなりました。

<7月> 日照時間は少なく、降水量は多い

上旬の日平均気温は平年より0.7℃高く、日照時間は平年比44%と少なく、降水量は平年比215%と非常に多くなりました。

中旬の日平均気温は平年より2.1℃低く、日照時間は平年比21%とかなり少なく、降水量は平年比118%と非常に多くなりました。

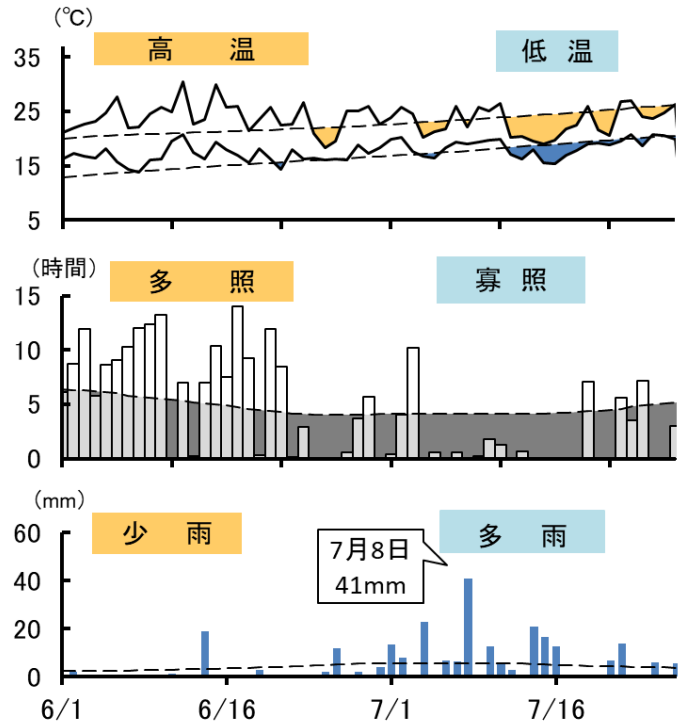


図1 気象経過(アメダス石巻)

※上: 最高・最低気温, 中: 日照時間, 下: 降水量
※点線は平年値

調査ほの生育状況(7/27)

播種時期が早いほ場で生育量が大きい傾向。

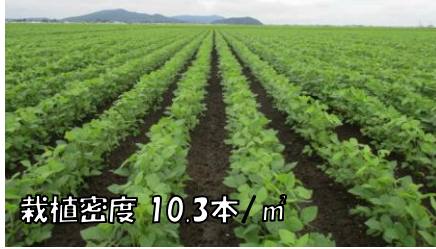
タンレイ(水沼) 6/13播種



栽植密度 16.4本/m²

ミヤギシロメ(小船越)

6/5播種



栽植密度 10.3本/m²

タンレイ(広瀬) 6/8播種



栽植密度 16.6本/m²

ミヤギシロメ(牛田)

6/16播種



栽植密度 17.4本/m²

タチナガハ(蛇田) 6/19播種



栽植密度 14.0本/m²

◆タンレイ：2ほ場とも播種時期は平年並～早く、主茎長については平年を上回り、主茎節数及び分枝数については平年並から平年をやや上回っています。

◆タチナガハ：播種時期は平年より遅く、主茎長、主茎節数、分枝数ともに平年より短い(少ない)です。

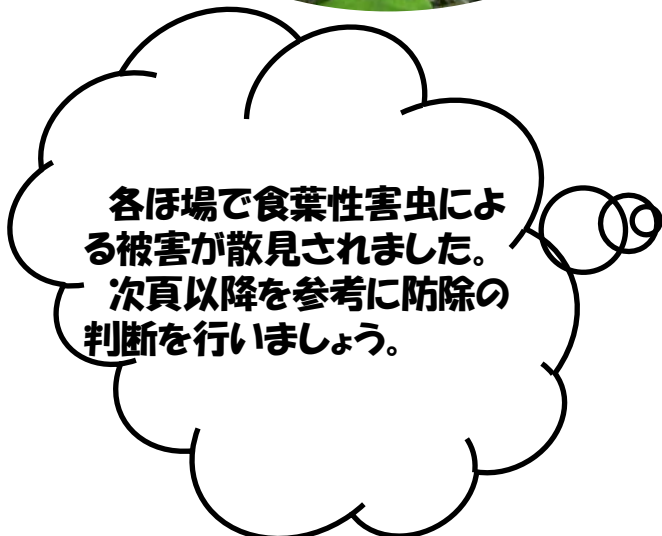
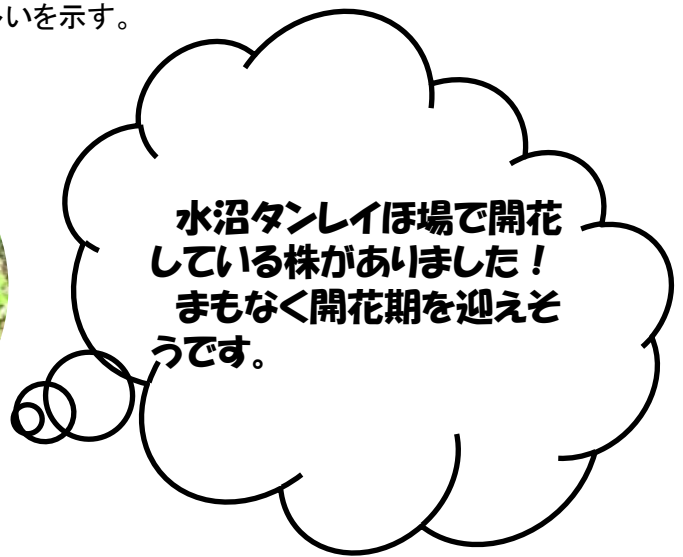
◆ミヤギシロメ：2ほ場とも播種時期は平年より早く、主茎長については平年を上回り、主茎節数及び分枝数については平年並から平年をやや上回っています。

表1 調査ほの7月27日調査結果

品 種 (作型)	地点名 (旧市町)	播種日(月日)			主茎長(cm)			主茎節数(節/本)			分枝数(本/本)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
タンレイ (普通)	広渕 (河南)	6/08	-18	-8	46.8	+27.2	+16.4	10.1	+5.3	+1.7	0.5	+0.5	-0.3
タンレイ (麦あと)	水沼 (石巻)	6/13	-4	0	41.5	+15.7	+10.8	8.8	+1.9	+0.3	1.5	+1.5	+0.5
タチナガハ (麦あと)	蛇田 (石巻)	6/19	+11	+5	26.2	-0.3	-4.4	7.0	-0.9	-1.6	0.0	0	-0.5
ミヤギシロメ (麦あと)	小船越 (河北)	6/05	-34	-17	41.3	+28.8	+14.4	9.3	+7.0	+2.0	1.0	+1.0	+0.2
ミヤギシロメ (麦あと)	牛田 (桃生)	6/16	-9	-5	34.8	+4.6	+8.3	7.2	-0.2	+0.1	0.1	0	-0.3

※1 平年値：H27～R1の5か年平均。

※2 「-」は早い、短い、少ない、「+」は遅い、長い、多いを示す。



◆中耕・培土

- ◎ 開花期の10日前までに終わるようにしましょう。
必ずほ場の状況を確認してから実施しましょう。
- ◎ 生育量が小さいほ場や排水不良のほ場、麦あと晩播になるほど、標播より作業可能期間が短くなるので、遅れないよう適期に作業しましょう。
- ※ **中耕・培土が遅すぎると、根の切断や花、莢に損傷を生じるだけでなく、分枝が機械に絡まることによって倒伏を助長するなど、減収につながる場合があります。**

◆追肥

- ◎ 湿害等により葉色が著しく淡い場合や生育不良の場合には、硫安などの速効性肥料で生育回復を図りましょう。施用量は**N成分で3kg/10a程度**が目安です。
- ※ **窒素過多は根粒菌の活性を低下させるので注意しましょう。**
- ◎ 大豆は開花期以降多量の窒素を必要とするので、根粒菌の着生や地力が劣るほ場では、最終培土時に緩効性肥料(LP40)を現物で12kg/10a程度施用すると、増収が期待できます(普及に移す技術第53号)。
- ※ **ミヤギシロメでは蔓化・倒伏を助長する場合がありますので、注意しましょう。**

◆病害虫対策 (ほ場ごとの生育ステージに合わせた適期防除を！)

タンレイ：紫斑病防除を最優先
ミヤギシロメとタチナガハ：マメシンクイガなどの子実害虫防除を優先

◎ 紫斑病

降雨が多く、収穫時期の気温が高いと発生が多くなります。特にタンレイで多発しやすいので、**タンレイでは開花期後20～40日に2回防除**しましょう(同一剤の使用は避ける)。

<ポイント> **開花期を確認しましょう！**

紫斑病対策には適期の薬剤散布が重要なので、**開花期を確認して防除日を決める必要**があります。

大豆の開花期は、「**1つでも開花の見られた株が全株の4～5割に達した日**」です。開花は、ほ場の外からでは判断しにくいので、必ずほ場の中に入って観察し、正確に判断しましょう。

また、タンレイでは開花期の生育指標(目標収量300kg/10a)が示されているので、開花期に主茎長と主茎節数を測定することで、生育診断ができます(表2、普及に移す技術第87号より抜粋)。

表2 タンレイの開花期の目標生育量

播種期	主茎長	主茎節数
標播	約60～65cm	約13～14節
晩播	約45cm以上	10節以上

※ 目標収量300kg/10aとした場合の生育量の目安

◎ **子実害虫**(マメシクイガ, フタスジヒメハムシ, ダイズサヤムシガ, カメムシ等)

☆ **マメシクイガ**

連作ほ場で多発します。**8月末～9月はじめに1回目の防除**, その7～10日後に2回目の防除を行いましょ。

※マメシクイガは日長に反応して休眠覚醒するため, 発生時期の年次変動は少ないのが特徴です。

☆ **フタスジヒメハムシ**

生育初期の葉の食害に加え, 若莢の表面を食害し, そこから雑菌が侵入して汚粒の原因となります。第2世代成虫の発生盛期(8月下旬～9月上旬)に防除を行いましょ。

☆ **ダイズサヤムシガ**

若齢幼虫が**大豆の生長点付近の葉をすり合わせて食害しているとき(右写真)に防除**しましょ。



◎ **食葉性害虫**(チョウ目幼虫, コガネムシ類)

開花期後(特に莢伸長期～子実肥大期)に食害を受けると減収することがあるので, **食害葉面積率20%(右写真)を目安に防除**しましょ。



◎ **アブラムシ類**

モザイク病や萎縮病といったウイルス病を媒介し, 多発すると早期落葉して収量・品質が低下します。

葉の黄化・褐変症状が見られたら(写真右上)葉の裏を確認し, 発生が多いときには薬剤による防除を行いましょ。また, モザイク・萎縮の見られる株は抜き取ります。



◆ **乾燥対策**

◎ 大豆は開花期以降, 大量の水を必要とし, 不足すると落花・落莢により減収するので, **晴天が7日以上続き, 土壌が白く乾燥し, 日中の葉の半分以上が反転している場合には, 暗きょを閉じて水分保持(地下かんがい)するなどの対策が有効**です。

◎ 畝間かん水が可能な場合は実施しましょ。

畝間かん水の注意点

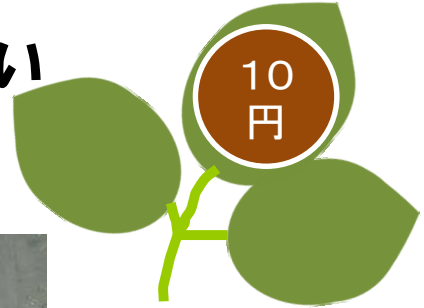
- ① **必ず夕方～朝方にする(日中は絶対にダメ!)**
- ② **過湿にならないようにする**

(参考)

大豆の葉数の数え方について

○本葉(3枚一組)を数える

真ん中が10円玉より小さい葉は数えない
子葉, 初生葉は数えない
分枝の葉は数えない



写真の場合は4葉期です。

※ 「主莖節数」は、子葉節と初生葉節も数えるので「葉数+2」となり、写真の場合は6節となります。

1か月予報 (7/25~8/24)

仙台管区气象台 7月23日発表

天気は数日の周期で変わりますが、期間の前半は、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

○1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%)

○週別気温経過の各階級の確率(%)

